京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

（3 年計画の 2 年目）

１．研究課題

近現代日本の研究資源に関する基礎的研究

Fundamental research concerning research resources on modern and contemporary Japan

２．研究代表者氏名

小堀　聡・福家　崇洋

３．研究期間

2022 年 4 月-2025 年 3 月(2 年目)

４．研究目的

本研究班の目的は、京都大学人文科学研究所（以下、人文研）を中心とする諸機関に所蔵される、近現代日本の研究資源の整理・保存・公開である。これまで人文研には旧日本部が収集してきた研究資源が存在するほか、近年もみやこの学術資源研究・活用プロジェクトを通じて数多くの研究資源が蓄積されてきた。これらはいまだ整理の途上であるものも存在するが、今後精力的に整理・公開していくことで、共同利用拠点、共同研究拠点としての人文研への積極的な貢献を目指す。あわせて、本研究班には他機関の研究者も積極的に参加してもらうことで、研究資源情報の共有や、整理公開作業の協働化を推し進めたい。これら研究資源の整理と公開は、基礎研究として、今後の人文科学の発展に不可欠であるばかりでなく、人文研の共同研究班のネットワークの増大や扱いうる研究資源の拡大にとっても大きな意味を持つと考えている。

The purpose of this research group is to organize, preserve, and release to the public the research resources on modern and contemporary Japan held by the Institute for Research in Humanities, Kyoto University and other institutions. Until now, Institute for Research in Humanities has had research resources collected by the Japanese Division. In recent years, through the Miyako Academic Resources Research and Utilization Project, a large number of research resources have been accumulated. Although some of these are still in the process of being organized, we aim to actively contribute to the Joint Usage Center and Joint Research Center by organizing and releasing them in the future. In addition, we would like to have researchers from other institutions actively participate in this research group to promote the sharing of research resource information and collaboration in the work of organizing and publishing. The organization and disclosure of these research resources is not only essential for the future development of the humanities as a basic research field, but also carries

significance for the Institute for Research in Humanities through the expansion of a network of joint research groups and the proliferation of research resources.

５．本年度の研究実施状況

本年度は主に、京都大学内外の各種資料のうち、以下の整理を行なった。まず、京都大学内は人文研所蔵岩井会旧蔵資料および京都大学職員組合所蔵資料である。前者は昨年度からの継続であり、アルバイトも雇用しつつ、早期公開に向けた整理作業を進めている。また、本年度に整理を開始した京都大学職員組合所蔵資料は 1948 年結成以来の膨大な資料群であり、職組 OB の協力も得つつ整理作業を行なっている。職組内部資料のほか科学者運動の資料も含む貴重な資料であることが明らかになった。学外の資料としては、核融合科学研究所所蔵「森一久資料」の調査と整理を継続したほか、名古屋大学経済学研究科所蔵「荒木光太郎文書」の整理を開始した。これは東京帝国大学経済学部教授を務めた荒木光太郎の旧蔵資料であり、経済政策や日本占領政策にかんする文書や写真などで構成される。いずれも資料所蔵機関と方針を相談しつつ作業を進めた結果、仮目録の作成作業が概ね完了した。

６．本年度の研究実施内容

2023-04-25 京都大学職員組合資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋 人文科学研究所

2023-05-18 岩井会資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋・ティル＝クナウト 人文科学研究所

2023-05-25 尼崎市立歴史博物館での資料整理と意見交換　発表者 黒川伊織・福家崇洋 エルライブラリー・人文科学研究所

2023-06-14 森一久資料（核融合科学研究所所蔵）の整理と意見交換　発表者 小堀聡・喜多川進・瀬戸口明久 人文科学研究所・山梨大学

2023-06-15 森一久資料（核融合科学研究所所蔵）についての意見交換　発表者 小堀聡・喜多川進 人文科学研究所・山梨大学

2023-07-21 岩井会資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋 人文科学研究所

2023-07-26 荒木光太郎（名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室所蔵）の整理と資料所蔵機関との意見交換　発表者 小堀聡 人文科学研究所

2023-08-29 京都大学職員組合資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋 人文科学研究所

2023-09-21 荒木光太郎（名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室所蔵）の整理と資料所蔵機関との意見交換　発表者 小堀聡 人文科学研究所

2023-10-03 京都大学職員組合資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋 人文科学

研究所

2023-10-19 森一久資料（核融合科学研究所所蔵）の整理と資料所蔵機関との意見交換　発表者 小堀聡 人文科学研究所

2023-10-31 京都大学職員組合資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋 人文科学研究所

2023-11-29 岩井会資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋 人文科学研究所

2023-12-12 森一久資料（核融合科学研究所所蔵）の整理と資料所蔵機関との意見交換　発表者 小堀聡 人文科学研究所

2024-01-16 京都大学職員組合資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋 人文科学研究所

2024-02-16 京都大学職員組合資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋 人文科学研究所

2024-02-28 荒木光太郎（名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室所蔵）の整理と意見交換　発表者 小堀聡・牧野邦昭 人文科学研究所・慶應義塾大学

2024-03-14 京都大学職員組合資料の整理と意見交換　発表者 小堀聡・福家崇洋 人文科学研究所

７．共同研究会に関連した公表実績

なし

８．研究班員

所内

小堀聡、福家崇洋、ティル・クナウト

学外

喜多川進(山梨大学生命環境学部)、牧野邦昭(慶應義塾大学経済学部)、須永哲思(天理大学人間学部)、佐々木政文(京都先端科学大学人文学部)、立本紘之(法政大学大原社会問題研究所)、黒川伊織(エル・ライブラリー)

9．共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数（必須）	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生
人文研所属	1	4	0	0	0	0	30	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
京大内（人文研を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
国立大学	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
（内女性）		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
その他　※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	4	7	0	0	0	0	34	0	0	0	0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)
※「その他」の区分受入がある場合具体的な所属等名称を記載：例）高校教員 無所属の場合は機関数０とカウントし、この欄の記載不要											

10．本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文（単著・共著）	10		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文（共著）	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文（共著）	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	Fujihara Tatsushi ed., Handbook of Environmental History in Japan Fujihara, Tatsushi ed.	1	R5.4	The 20th Century around Tokyo Bay: Life, Production and Environment	小堀聡
2	財政と公共政策	1	R5.5	環境政策研究の新たな萌芽を見出せたのか：環境経済・政策学会 2022 年大会報告	喜多川進
3	図書新聞	1	R5.5	日本の「もうひとつの」戦争—メディア史の観点から日本現代史研究に新たな視座を提示する 崔銀姫編著『東アジアと朝鮮戦争 70 年』	黒川伊織
4	毎日新聞	1	R5.5	脱炭素電源法案 「原発運転が責務」の危険性	小堀聡
5	教育学研究	1	R5.6	上野 浩道・田嶋一編『大田堯の生涯と教育の探求 「生きることは学ぶこと」の思想』	須永哲思
6	関西教育学会研究紀要	1	R5.6	田中耕治編著『学級経営の理論と方法』	須永哲思
7	軍事史学	1	R5.6	大岸頼好と国家改造運動	福家崇洋
8	日本思想史学	1	R5.9	福島栄寿著『近代日本の国家と浄土真宗——戦争・ナショナリズム・ジェンダー』	佐々木政文
9	高木博志編『近代京都と文化 「伝統」の再構築』	1	R5.9	戦時下の新村出	福家崇洋
10	井野瀬久美惠（責任編集）『つなぐ世界史』3	1	R5.9	新世界秩序の相剋とファシズムの台頭	福家崇洋
11	毎日新聞	1	R5.11	気候変動問題と日本 新たなルール作り必要	小堀聡

12	唯物論と現代	1	R5.12	1950 年代サークル運動論再考—高木宏夫『日本の新興宗教』を手がかりとして	黒川伊織
13	Japanese Research in Business History	1	R5.12	Sinan Levent. Sekiyu to nashonarizumu: Chūtō shigen gaikō to “Sengo Asia-shugi” [Oil and Nationalism: Middle East Resource Diplomacy and “Postwar Asianism”]. Kyoto: Jimbun Shoin, 2022.	小堀聡
14	石橋省三・星浩 編著『石橋湛山　没後五〇年に考える』	1	R5.12	石橋湛山の経済思想	牧野邦昭
15	経済論叢	1	R5.12	高田保馬の社会学と経済学—「理論」と「時論」	牧野邦昭
16	松浦正孝編著『「戦後日本」とは何だったのか』	1	R6.2	人新世のなかの戦後日本ー地球と地域とからみる	小堀聡
17	大原社会問題研究所雑誌	1	R6.3	EV シフトの実態と影響	喜多川進
18	大原社会問題研究所雑誌	1	R6.3	循環型経済におけるディーセントワーク——公正な移行に向けて：ディスカッション	鈴木玲・喜多川進・植田浩史
19	榎一江編『無産政党の命運—日本の社会民主主義』	1	R6.3	「戦前期無産政党における「書記長」・「書記局」の成立・変遷についての一考察」	立本紘之
20	法政大学大原社会問題研究所・榎一江編『無産政党の命運　日本の社会民主主義』	1	R6.3	社会大衆党結党過程の検討	福家崇洋

21	奈良県立大学ユーラシア研究センター編『奈良県立大学ユーラシア研究センター学術叢書３　vol.3 奈良に蒔かれた言葉Ⅲ　近世・近代の思想』	1	R6.3	「天平文化」顕彰の思想	福家崇洋
22	経済史研究	1	R6.3	小野圭司著『日本戦争経済史：戦費、通貨金融政策、国際比較』	牧野邦昭

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	「秋丸機関」関係資料集成第１巻	牧野邦昭編	R5.5	不二出版	
2	「秋丸機関」関係資料集成第２巻	牧野邦昭編	R5.5	不二出版	
3	「秋丸機関」関係資料集成第３巻	牧野邦昭編	R5.9	不二出版	
4	「秋丸機関」関係資料集成第４巻	牧野邦昭編	R5.9	不二出版	
5	近代日本の思想変動と浄土真宗―教化・連帯・転向―	佐々木政文	R5.7	法蔵館	

12. 博士学位を取得した学生の数

なし

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 次年度の研究実施計画

岩井会旧蔵資料、京都大学職員組合所蔵資料、森一久資料、荒木光太郎文書の調査と整理を継続する。このうち、とくに京都大学職員組合所蔵資料と荒木光太郎文書については、「市民との協業」を意識した研究を行なう。まず京都大学職員組合所蔵資料については、未整理資料がまだ大量に残されているため、職組 OB・専従職員との協力関係を維持しつつ、作業を継続したい。特に劣化の進んだ資料については、電子化保存も検討する。また、荒木

光太郎文書についても、その写真資料に登場する人物の特定作業を、ご遺族の協力を得つつ進めていきたい。なお、森一久資料については、昨年度の調査で未整理資料が新たに発見されたため、その整理を中心に作業を継続する。これら以外にも、他館の資料見学なども通じて、全国に点在する貴重な資料の所在などの情報共有を班員内で引き続き実施したい。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

資料整理の中で発見された貴重資料の紹介、作成済みの目録の公開化などの形で、研究成果の公開をできればと考えている。また整理作業の成果として、海外から研究者を招いて国際シンポジウム「ニューレフトは誰と闘ったのか？　―日本管理社会とポスト 70 年の抵抗―」を人文研で実施予定である。